

# 地域の宝 若者巻き込もう

「(小正月の)三九郎を公民館主催でやれないか」。松本市中心街の第二地区公民館の早坂義導館長は、ある町会からそんな相談を受けた。深志神社があるなど歴史的な地域ながら、近年は町会に入らないマンション・アパート住まいの人も多い。三九郎も3年ほど前まで6カ所で行われていたが、令和の時代に入り

2カ所が取りやめた。早坂館長は「伝統行事で地域や家族のつながりが深まればとの思いは同じ。でも公民館でやれというのは…」と困惑する。

伝統行事の継承が難しくなっている。松本市内では少子高齢化に加え「交通整理人員が確保できない」との理由で、夏の風物詩である青山様・ぼんぼんの実施日を減らした地区もある。安曇野市三郷の北小倉中區は担い手不足から一昨年に正月の御柱行事をやめた。

松本市が平成30(2018)年度に行った市民満足度調査によると、伝

## 未来をひらく

《第1部》ふるさと×アップデート

### ② 伝統行事の継承 いかん

統文化の保存・継承について回答の7割近くが肯定的だが、現在「取り組んでいる」は5割に満たなかった。市立博物館の木下守館長は「自分がやらなくても…」という他人任せの現状だ。このままでは行事が消える」と警鐘を鳴らす。

安曇野市文化財保護審議会委員の倉石あつ子さん(76)は「民俗は常に変化し、必要なければなくなる。現状は集団より個を重視した戦後教育の結果」とし「残すなら『残したい』と願う若者を育てなければ。歴史や意義を次代に伝えることが大切」と指摘する。



ササラ踊りの演奏・歌を体験する明善中学校の生徒たち。子供たちに未来を託して体験を指導する(3月)

木曾町の木曾踊り保存会は会員34人の半数以上が75歳以上だ。後継者不

足に悩む中、近年踊りの記録・発信に力を入れ、練習の映像をインターネット上のSNS(会員制交流サイト)に投稿している。町もPRの一環で踊る様子を録画した。上田憲男会長(72)は「映像を見て興味を抱いてくれれば」と期待する。

松本市内田地区に伝わるお盆の「ササラ踊り」の伴奏は録音でなく生の三味線や歌だ。今春に公民館と保存会が体験教室を企画し、地元・明善中学校の協力で参加を呼びかけたところ、近隣の寿台や松原地区の子供たちも参加した。内田公民館の丸山明良館長は「進学・就職で県外へ出てもらいずれ帰郷し継承してくれれば。まずは親しんで」と語り、将来への投資が実を結ぶことを願う。

(小岩井貴之)

#### みんなの一言

- ・町会の清掃活動や伝統行事などを担う人が少ないと続いている。若い人に住んでほしい。(松本市大手4、鈴木幸子さん、70歳)
  - ・(不安は)少子高齢化。常会もお年寄りが多い。今は動けていても…。空き家もどんどん多くなっている。(塩尻市広丘野村、主婦、38歳)
- ※市民タイムスのHPなどのアンケートより

